

国内外原子力事故関連情報の集約と共有に向けた取り組み

早川 美彩；研究連携成果展開部 科学技術情報課

概要

原子力機構図書館では東京電力福島第一原子力発電所事故からの復旧・復興に向けた研究開発を支援するという観点から関連情報の収集・整理・提供の取り組みを行っている。事故発生以降、参考文献情報等を整理し提供を行うとともに、関連情報を収集・整理し発信を行っている。

【取り組みのポイント】

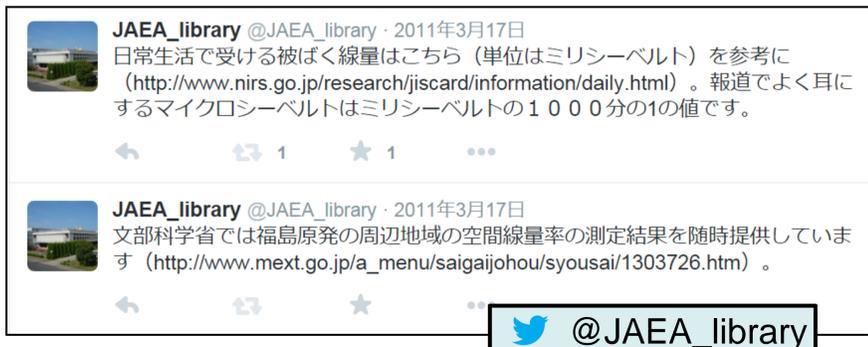
- ①事故直後からの取り組み：速報性を重視した情報発信
- ②福島アーカイブの構築：インターネット情報のアーカイブ構築
- ③情報の共有にかかる取り組み：国立国会図書館との連携

事故直後からの取り組み

【Twitterを活用した即時性の高い情報発信】

原子力機構図書館では、事故の数日後よりTwitterを使用して、東京電力や経済産業省等の官公庁の発信する事故の推移等に関するプレスリリース、学会等が発信する事故の関連情報や被ばく・線量に関する説明資料などの関連情報をツイートし、リアルタイムでの事故情報発信に努めてきた。

また、Twitterを通して紹介した情報を主題別・発信元別に整理し、「関連リンク集」として提供を行っている。



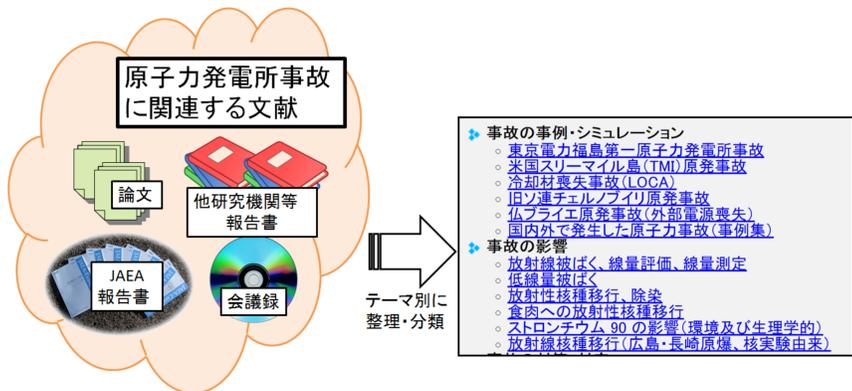
Twitterで発信した情報を分類し、リンク集を作成

福島原子力発電所事故のリンク集

<ul style="list-style-type: none">放射性核種の拡散放射性物質の除染水域での放射性核種拡散汚染水の除染処理大気中の放射性核種拡散放射線被ばく食品の放射性汚染流通商品の放射性汚染	<ul style="list-style-type: none">放射線防護基準放射線防護環境放射線モニタリングロボット原子力関連構造物・機器核燃料の輸送と貯蔵原子力発電所原子力施設の安全性	<ul style="list-style-type: none">核燃料施設の安全性福島原子力発電所事故 事故報告福島原子力発電所事故 事故対応福島原子力発電所事故 事故分析福島原子力発電所事故 事故分析線量計廃棄物処理廃棄物処分原子力の経済性	<ul style="list-style-type: none">社会的影響再生可能エネルギーの経済性送電法律保障措置原子力一般関連会議等概要(※別ウィンドウ)
---	---	---	---

【事故収束に向けた参考文献情報の集約と提供】

事故の発生以降、事故収束に向けた対応にあたる内外の研究者・技術者から冷却材喪失事故・環境回復等に関する参考文献を求める声が多数寄せられていた。これらの情報要求に効率的に対応し、事故収束に向けた研究開発を支援するため、「3.11原子力事故参考文献情報」サイトを構築し、2011年4月より情報提供を開始している。



福島アーカイブの構築

【経緯とコンセプト】

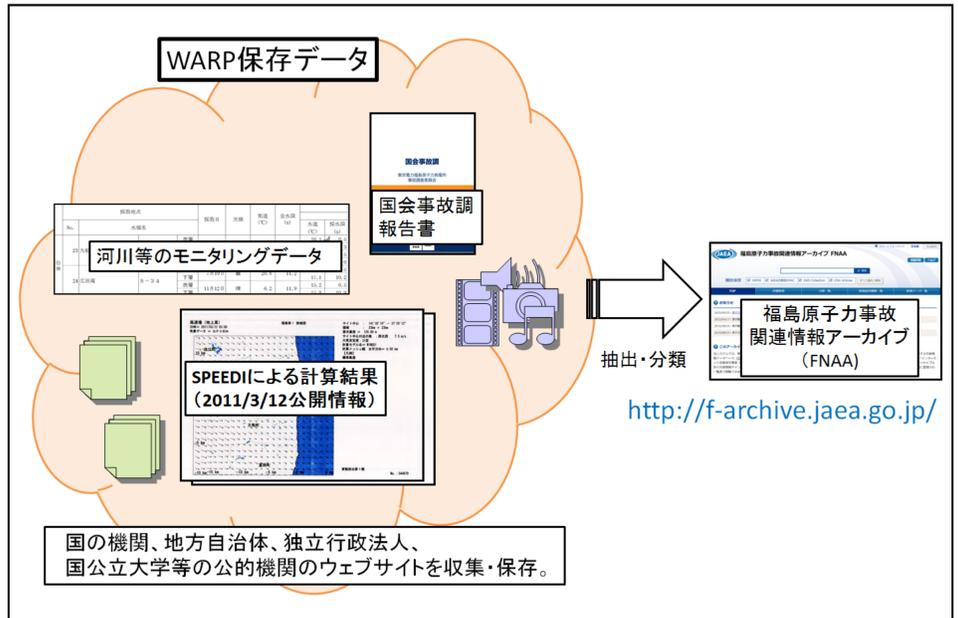
福島第一原子力発電所事故に関連する研究開発支援においては、継続的な情報提供が必要となる。

そこで各機関から発信される福島関連情報を、将来にわたって閲覧可能とするため、国立国会図書館インターネット保存事業（WARP）で保存されているインターネット情報を活用し、アーカイブを構築することとした。

【収集の対象】

福島原子力事故関連情報アーカイブ（以下、福島アーカイブ）では、国内の公的機関等のウェブサイトから発信される事故関連情報を収集対象として選定している。

また、研究開発成果情報として速報性の高い情報源でありながら、入手に制約がある口頭発表情報についても併せて収集・提供を行っている。



【IAEAが作成する原子力重大事故に関する分類の活用】

福島アーカイブで体系的な情報の閲覧・検索を可能とするため、IAEAが作成している、原子力重大事故に関する知識の保存・共有のための階層的な分類体系(タクソノミー)を活用し、分類情報の付与を行った。

また、このタクソノミーは英語で記述されていることから、原子力機構において日本語版を作成し、福島アーカイブに反映している。

タクソノミーを使用して分類を行うことにより、福島アーカイブに蓄積した情報を国際的に広く活用することが可能となった。

【福島アーカイブを使用した検索の事例】

タクソノミーの「環境保護と修復に関するR&D」を使用して検索した結果を示す。プルダウンから調べたい情報の分類を選択することで、関連する情報を一括して検索・閲覧することができる。



分類情報を活用した検索が可能

情報の共有に係る取り組み

福島アーカイブの情報をより広範に発信するため、関連するデータベース等との連携を進めている。

2015年10月には、他のデータベースが福島アーカイブのデータをダウンロードしたり、横断検索できるように、Web-APIの機能追加を行った。

現在、国立国会図書館が運営する東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」との連携に係る調整を進めている。

また、IAEAが運用する原子力文献情報データベースINISとの連携も段階的に実施しており、収集した情報の共有と発信力の強化に取り組んでいる。

